

社会科学習指導案

学 級 3 年 F 組
場 所 社会 2 教室
授業者 長嶺 圭佑

1 単元名 現代社会の見方や考え方

2 単元の目標

- (1) 対立と合意、効率と公正といった概念的枠組みを使い、現代の社会的事象を読み解こうとする態度を育てる。
- (2) ルールやきまりについての関心を高め、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせる。

私たちの生活の中では、日々さまざまな社会的な問題が起きている。それらは身近な問題から国家間の問題までさまざまであるが、大切なのは社会的な問題が起きた時にどのような考え方を持って解決策を話し合っていくかということである。

中学校学習指導要領社会科公民的分野の大項目「(1) 私たちと現代社会」の中項目「イ 現代社会をとらえる見方や考え方」において、「人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義を考えることを通して、現代の社会的事象を読み解くときの概念的枠組みとして、対立と合意、効率と公正などがあることを理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義および個人の責任などに気付かせる」とされている。

社会的な問題が起きた時にどのような考え方を持って解決策を話し合うかということについて、学習指導要領の中では、「物事の決定の仕方」「現代社会をとらえる見方や考え方の基礎」について考えさせ、「きまりの意義」を理解させることが必要であるとしている。特に「現代社会をとらえる見方や考え方の基礎」についてはその概念的な枠組みの基礎となるものとして、「対立」「合意」「効率」「公正」を挙げている。

そこで、本単元では前述のことを受け、まず自分が社会集団に属している一員であり、次に社会集団ではさまざまな問題が起こり得ることに気付かせ、その問題の解決策について考えさせる。その解決策を考える過程を通して、問題の発生から解決までの中に「対立」と「合意」という流れがあること、および自分たちが考えた解決策には「効率」や「公正」という視点があるということを理解させる。最後に、「対立」から「合意」の中で生まれた解決策の集合体として、さまざまな社会集団の中には「きまり」がつくられるということに気付かせることを指導の大きな流れとして設定する。

なお、学習指導要領解説では「現代社会の見方や考え方の基礎を生徒が身に付けるに当たっては、社会生活に見られる具体的な事例を取り上げて考えさせていくなどの工夫が必要となる」としていることを受け、本単元では生徒にとって身近な自治会のルール、部活動におけるグラウンドや体育館使用の割り振り方、給食の配膳の仕方などの事例について取り上げていくこととする。

3 研究主題との関連

本校の研究主題は「表現する力を向上させるための指導と評価のあり方 ～思考・判断の深化を通して～」である。本校社会科では、研究主題の中にある「表現する力」を「修得した知識・技能を活用して、自分なりに思考し、判断したことを言語や図・グラフ・絵などに表現する力」と定義している。それを受けて、社会科の研究主題は「社会的な見方や考え方を養い、自分なりの考えを伝える力を育てる学習指導のあり方」としている。

昨年度は本校研究仮説の(1)「わかったことを自分の言葉で表現したり、自分の伝えたいことを図やグラフ・絵などで表現したりする活動を多く取り入れれば、自分なりの考えを伝える力が育つであろう」を検証したので、今年度は(2)「学習活動の中で自分の考えをすすんで表現したいと考えられるような学習活動を取り入れていけば、自分の意見を構築し、伝える力が育つであろう」という研究仮説を検証することにしたい。

4 生徒の実態 (男子 20 名 女子 17 名 計 37 名)

展開学級である 3 年 F 組は、男女ともに真面目で落ち着いた生徒が多い。授業に対しても積極的に取り組むことができる。これまでの授業の様子から見ると、この学級は前時の復習など知識を問う、一問一答式の発問に対しては男女ともによく挙手をする。

先日行った、社会科の学習に関するアンケートによると、「社会の授業は楽しいですか」という質問に対し、「とても楽しい」または「楽しい」と答えた生徒の数は 28 人であり、「テレビや新聞、インターネットなどでどれ位の頻度でニュースを見ますか」という質問では、「ほぼ毎日見る」という生徒の数は 18 人で、「週 4～5 の頻度で見る」という生徒の数は 9 人であった。このことから、このクラスは社会科という教科や社会に対する関心は高いことが分かる。しかしその一方で、「授業中に自分の意見を発表する」という質問に対して、「あ

まり発表しない」と答えた生徒の数は14人、「全く発表しない」と答えた生徒の数は4人であり、あわせると半数以上が自分は授業中に発表をしないという意識を持っていることが分かる。また、「話し合い活動は好きですか」という質問に対して「少し苦手」と答えた生徒が17人、「苦手」と答えた生徒が6人と、あわせると約6割の生徒が苦手意識を持っていることが分かる。苦手意識を持っている理由については「皆の前で発言するのが恥ずかしい」「何を話せばいいかわからない」などというような意見が多かった。

以上のことから、指導にあたっては意見を出しやすいような身近な話題について取り上げたり、発言しやすいように小グループ単位による話し合いの機会をできるだけ多く設定したり、ワークシートに自分の意見をまず書かせてから発表させるなどの配慮をする。

5 単元の評価規準

(1)社会的事象への関心・意欲・態度	(2)社会的な思考・判断・表現	(3)資料活用の技能	(4)社会的な事象についての知識・理解
①きまりの意義や必要性について意欲的に追求しようとしている。 ②話し合い活動の中で他人の意見を聴きながら、きまりの見直しについて積極的に自分の意見を述べている。	①社会集団における対立の存在に気付くとともに、合意を得るためにはどのような取り組みが必要なのか考えている。 ②効率・公正の考え方をもとに、自分たちの身近にある問題の解決策を考えている。	①物事の決定の仕方やきまりの意義についての資料を収集し、適切に選択して読み取っている。 ②具体的なきまりの事例から、そのきまりの問題点を読み取っている。	①自分が社会集団の一員として生活しているとともに、人間が社会的存在であるということを理解している。 ②具体例をもとに効率・公正という考え方について理解している。

6 指導と評価の計画(4時間)

時程	ねらいと学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法
1	【社会集団の中で生きる私たち】 社会集団とは何か、社会集団の中で起こる対立と合意という過程について知る。	(4)－① (2)－①	定期試験 ワークシート
2	【効率と公正】 みんなが納得するために必要な考え方について知るとともに、解決策について話し合う。	(2)－② (4)－②	観察 ワークシート
3	【きまりをつくる目的と方法】 きまりの意義や権利、義務、責任、物事の決定の仕方について確認する。	(1)－① (3)－①	観察 ワークシート
4	【きまりの評価と見直し】 きまりを見直す観点を確認し、身近なきまりをもとにきまりの評価と見直しを行う。	(3)－② (1)－②	ワークシート 観察

7 本時の指導 (第2時)

(1)本時の目標

- ①給食の配膳の仕方やルールという具体例をもとに「効率」「公正」という考え方について理解する。(社会的な事象についての知識・理解)
- ②自分たちにとって身近な問題である給食の配膳の仕方やルールについて「効率」や「公正」という考え方をもち、意見をまとめることができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2)表現する力を向上させるためのポイント

- ・意見が出しやすいような身近な話題を題材として取り上げる
- ・ワークシートに自分の意見をかかせてから話し合いをさせる
- ・小グループ単位で話し合いをさせる

(3)展開

過程	学習内容と生徒の活動	教師の指導	評価 (方法)
導入 (10分)	<p>○3分間スピーチとそれを聞いてのコメントを行う。</p> <p>○3年F組の給食のルールを確認した上で、他のクラスの給食のルールを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>F組のルール (おかわり): ジャンケン方式 (盛りつけ方): 特に指定なし (配膳の方法): 係による配膳 (片付け): 食べ終わった人から片付け→全員片付けたら「ごちそうさま」</p> </div>	<p>○スピーチに対する補足を行う。</p> <p>○具体的にはクラスごとの「おかわりの仕方」、「盛りつけの仕方」「配膳方法」、「ごちそうさまのタイミング」についての一覧表を生徒に配り、確認させる。</p>	3分間スピーチの原稿
展開 (30分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>ムダのない、公平な給食のルールについて考えよう。</p> </div> <p>○四つの視点の内、一つの視点について取り上げ、他クラスと自分のクラスのルールの中から、自分が良いと思ったやり方とその理由をワークシートに記入する。【個人】</p> <p>○机を班の形にして、そのワークシートをもとに班の中で班長を司会とし、意見と理由をぶつあい、班で一つのルールにしぼる。【グループ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかわりはまず自分の給食をすべて食べてからおかわりに行くというルールの方が公正だと思う。 ・配膳は自分の分は自分で取りに行くと、当番に多めに盛ってと頼む人がいるので、配膳担当の人たちがみんな配膳をした方が公正だし、効率もよいと思う。 ・人気の高いデザートやカレーなどはできるだけ余りが出ないように配膳すれば効率がよいのではないか。 </div> <p>○班での話し合いをもとに、机をもとの形に戻し、班の代表が班で出したルールを発表する。【全体】</p> <p>○各班の意見を聴いて、質疑応答の時間をとる。</p>	<p>○机間指導をしながら、書けない生徒へのフォローを行う。</p> <p>○自分たちの意見が「無駄のないものになっているか」(＝効率)、「誰にとっても公正な内容になっているか」(＝公正)という視点を持ちながら話し合うように班での話し合いの前に説明する。</p> <p>○話し合いが活発にすすまない班がある場合は、教師が机間指導しながら助言する。</p> <p>○それぞれの班の意見を要約しながら、板書をまとめる。</p>	評価① (意見交換の様子)
まとめ (10分)	<p>○自分の意見をワークシートに書く。</p> <p>○自分の意見を発表する。</p> <p>○教師によるまとめを聞く。</p>	<p>○全部の班の発表が終わった所で、話し合いや質疑応答を通して自分がどう思うかワークシートに書かせる。</p> <p>○各班が出したルールについて自分の意見を書かせ、書けない生徒に対しては机間指導をしながら助言する。</p> <p>○発表する生徒がいない場合は机間指導の間に見た数人の生徒に発表させる。</p> <p>○給食のルールから世の中で起きている政治的な問題(具体例:自治体は税金をどのように使うか)に話をつなげ、それらも「効率」「公正」などの判断基準を持って議論されていることを説明する。</p>	評価② (ワークシート)

(4)本時の評価

- ①効率・公正の考え方をもとに、自分たちにとって身近な問題である給食の配膳の仕方やルールの問題点に対する解決策を考えている。(社会的な思考・判断・表現)
- ②給食の配膳の仕方やルールという具体例をもとに効率・公正という考え方について理解している。(社会的な事象への知識・理解)